

# もも・ネクタリン特報

# ②

R5. 3.30 No.2

J A 中野市営農センター  
J A 中野市りんご・もも部会

生育は、平年に比べて5~7日程度早まる見込みで開花は4/10前後と予想されます。今後の気象によっては変動する場合がありますので、生育状況をよく確認し、適期防除と管理作業を進めて下さい。また、せん孔細菌病の発生する園地では、例年同様に春型枝病斑の除去を徹底して下さい。近年のせん孔細菌病発生密度は、低下傾向にありますが、再度見直しを行うようお願い致します。

## 【過去の開花状況と本年の予想】 白鳳 平岡調査地点

年度	平年	R1	R2	R3	R4	R5 (予想)	次回特報発行予定：4/17 内容：落花後の薬剤散布
開花	4/16	4/20	4/17	4/8	4/18	4/10前後	

## もも・ネクタリン共通

## 第2回薬剤散布

\*薬液が枝にしっかりかかるよう、丁寧に散布する。 \*収穫中の作物等へ飛散しないよう、十分注意する

散布時期	開花1~2輪咲きの頃 (4月上中旬頃)		散布日 4月 日 散布量 リットル
散布薬剤	水	100リットル当り	
	展着剤 (アビオンE)	50ml	
	IC ボルドー412	3.3kg	
対象病害虫	せん孔細菌病		
散布量	10アール当り	350リットル	
<b>【注意事項】</b>			
① 混用順：水 ⇒ アビオンE ⇒ ICボルドー412			
② 展葉後のボルドー散布は、薬害発生の恐れがあるため散布時期を厳守する。			
③ アビオンEに代えて、KKステッカーの3000倍を使用してもよい。 (KKステッカーは必ず最後に調合する)			
④ ICボルドーに代えて、4-12式ボルドー液でもよい。			

## もも

## 第3回薬剤散布

## 【せん孔細菌病重要防除期間】

散布時期	落花直後 (4月下旬：樹全体の花が80~90%散った頃)		散布日 4・5月 日 散布量 リットル
散布薬剤	水	100リットル当り	
	展着剤 (アビオンE)	50ml	
	サムコルフロアブル10	20ml (前日、2回)	
	パレード15フロアブル	50ml (前日、2回)	
	アグレプト水和剤	100g (60日前、2回)	
散布量	10アール当り	350リットル	
混用順	水 ⇒ 展着剤 ⇒ サムコル ⇒ パレード ⇒ アグレプト		
対象病害虫	せん孔細菌病、黒星病、灰星病、うどんこ病、モモハモグリガ、ハマキムシ類		

散布時期	落花直後（4月下旬：樹全体の花が80～90%散った頃）		散布日 4・5月 日
散布薬剤	水	100リットル当り	
	展着剤（アビオンE）	50ml	
	サムコルフロアブル10	20ml（3日前、2回）	
	パレード15フロアブル	50ml（前日、2回）	
	マイコシールド	66g（28日前、5回）	
散布量	10アール当り	350リットル	
混用順	水 ⇒ 展着剤 ⇒ サムコル ⇒ パレード ⇒ マイコシールド		
対象病害虫	せん孔細菌病、黒星病、灰星病、モモハモグリガ、ハマキムシ類、シンクイムシ類、コスカシバ		

【もも・ネクタリン（落花直後）注意事項】

- ①アグレプト水和剤、アグリマイシン-100等は、ぶどう（特にワインぶどう、種あり巨峰）にかかると「薬害」を生じるので、飛散しないようにする。
- ②アブラムシ類対策：もも ウララDFの2,000倍(14日前、2回)を加用する。  
ネクタリン ウララDFの2,000倍(7日前、2回)を加用する。
- ③アグレプト水和剤、アグリマイシン-100等の使用回数は合計で2回までとする。
- ④【ネクタリン代替】：パレード15フロアブルに代えてトレノックスフロアブルの500倍（30日前、5回）でもよい。

人工授粉・・・結実が心配される品種（川中島白桃など）は、必ず人工授粉を実施する

花粉が少ない品種や全く無い品種は、必ず人工授粉を行なってください。あらかじめ開薬し採取した花粉で受粉することが最良ですが、授粉樹(花粉の多い品種)で開花している花の花粉を毛バタキ・綿棒に付けて受粉(相互交配)する方法も効果があります。 ◎授粉適期：満開期（全体の80%程度が咲いた頃）

もも貯蔵花粉の受付

もも・ネクタリンは天候状態により開花・満開が極端に進み、当用花粉では間に合わない場合や、凍害に遭遇した時に花粉のある品種でも人工受粉が必要となる可能性がありますので、桃花粉の貯蔵をおすすめします。

- ◆共同開薬所(ぶどうセンター内)では、次年度に使用するための貯蔵花粉の受付を行います。
- ◆採取する花は、白鳳・あかつき・なつっこ・山根白桃・白根白桃など花粉の多い品種がおすすめです。

春に苗木を定植する場合の注意点

春に苗木を定植した場合、土壌の乾燥による生育不良が心配されます。  
降雨がない日が3～4日続く場合は、こまめにかん水を行ない、土壌の乾燥防止に努めましょう。